

平成21年度 高原町立後川内中学校 自己評価書

4段階評価 A 期待以上 B ほぼ期待どおり C やや期待を下回る D 改善を要する

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		結果の考察・分析及び改善方策等
				指標別	総合	
知育	学習指導	朝学習の時間を連続20分間確保し基礎・基本の学習時間を確保している。	朝学習の時間を年間35単位時間以上を確保する。	朝学習の時間を連続20分間確保し『基礎学力の時間』とする。	A	A 「先生の授業は分かりやすく、よく理解できる」に「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答えた生徒が96%いた。また、「生徒は、学力が身に付いているか」という問いに対して、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答えたのは、生徒が81%、保護者が92%、職員が90%であった。これは、分かりやすい授業改善をはかるとともに、朝の学習において、基礎学力定着のために内容を工夫したり、昼休みや放課後の個別指導の徹底が成果として出ていたようである。今後も、生徒の理解につながる指導を続けていきたい。 しかし、「学力向上のために、家庭での学習に努めている。」の問いに対しては、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答えた生徒が70%であり、残りの30%については、家庭学習の習慣づけが必要である。また、学力の差が大きいので、今後も個に応じた指導に力を入れていきたい。
		全職員による授業研修会を実施することにより各教師の指導力向上が図られている。	全職員年一回以上の研究授業を実施する。	主題研を充実させ、全職員年一回以上の研究授業を実施し授業改善を図るとともに、わかる授業の推進を図る。	A	
		各種学力調査の結果を分析し、個々の生徒の実態に合わせた学習指導が図られている。	各種学力調査において、県平均を上回る。	各種学力調査の結果を分析し、個々の生徒の実態に合わせた学習指導の推進を図る。	A	
		年間指導計画に基づき、教育課程を適切に実施し、わかる授業が指導されている。	生徒の80%以上が授業や学習指導に対して満足感を持っている。	授業を充実させるとともに、昼休みや放課後、長期休業などを活用して「わかるまでくり返す指導」を徹底する。	A	
徳育	人権生徒教育指導	教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係づくりに努めている。	生徒の80%以上が学校生活に対して満足感を持っている。	小規模校にありがちな固定化された人間関係を見直し、それぞれのよさを認め、体の成長とともに心も成長していくことに気付かせながら、集団生活のマナーを身に付けさせる。	B	B 「生徒たちは学校へ行くのを楽しみにしている。」の問いに対して、「よくあてはまる」または「ほぼあてはまる」と答えた職員が100%、保護者が92%、生徒が78%で意識に差があるのが気になる。「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えた、生徒、保護者への対応が今後の課題である。 「進んであいさつする態度が育っている」の問いに対し「よくあてはまる」または「ほぼあてはまる」と答えた職員が90%、保護者が88%、生徒が74%であった。生徒の回答が80%を切り、昨年度よりも下がっていることが気になる。 「いじめのない学校」については、職員が100%、保護者が80%、生徒が93%であった。何らかの不安を抱えていると思われる保護者や生徒の存在に気付くとともに、生徒1人1人に気を配り、声かけ等をしていかなければならない。
		あいさつなどの基本的な生活習慣を身に付けさせるための適切な指導を行っている。	生徒の80%以上が気持ちのよいあいさつができる。	よりよい人間関係の構築には「あいさつ」が欠かせないことを理解させ、気持ちのよいあいさつが自然にできるような習慣を育成する。	B	
		人権教育に関する校内研修が年度計画に基づき、計画的かつ効果的に推進されている。	人権教育に係る授業を全職員年1回以上実施する。	道徳、特別活動の時間を充実させるとともに、人権教育を基調とする心の教育を実施し、心豊かな生徒を育成する。	B	
		栽培活動を通して、基本的人権尊重の精神を養う指導がなされている。	一人一鉢以上の花を栽培する。花いっぱいの花壇づくりをする。	互いに協力し合いながら花を栽培する活動を通して、情操をより豊かにし、命の大切さや相手への思いやりという基本的人権尊重の精神を養う。	B	
体育	体力づくり	自然環境を生かした体験活動を充実させ、体力の向上が図られている。	自然環境を生かした体力を向上させる活動を年間3回以上実施する。	農業体験、ロードレース大会、登山遠足など、他校にない自然環境を生かした活動を創造し、体力を向上させる。	B	B 自然環境を生かした体力向上行事として、登山遠足、校内マップレス、ロードレース大会(校内長距離走大会)、及び1学年で農業体験学習を実施できた。また、新体力テストでは多くの生徒が自己記録の更新を達成することができた。 「部活動に積極的に取り組んでいる」の問いに対し、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答えた生徒は70%と、昨年度の76%一昨年の100%から年々低下しているが、「あてはまらない」と答えた生徒については、競技力向上の行き詰まりや学習面との両立等の課題が考えられるため、今後とも支援を継続していきたい。また、生徒の自己評価が厳しくなったのではないかとこの側面も考えられる。 「食生活や健康で安全な生活、体力が身に付いている」の問いに対して、「よくあてはまる」または「ほぼあてはまる」と答えた職員が100%、保護者が96%、生徒が81%であり、いずれも高い評価であった。
		体力向上に係る指導計画が策定され組織的に指導されている。	全学年新体力テスト得点判定Tスコア50以上を獲得する。	体力向上の観点から保健体育の授業を充実させるとともに、昼休みの過ごし方など学校生活全般を工夫・改善する。	A	
		すべての生徒が運動部活動に入部し、組織的に指導されている。	生徒の80%以上が部活動に積極的に取り組んでいる。	すべての生徒が運動部活動に入部し、日々それぞれの目標に向かって活動できるように支援する。	B	
		食生活や健康・体力に係る指導が組織的・計画的に取り組まれている。	生徒の80%以上が食生活や健康・体力の向上に取り組んでいる。	保健だよりの発行や、学級懇談、講演会などを計画的に実施し、食生活や健康・体力の向上について家庭との連携を深める。	A	
環境教育	環境教育	地域の自然環境や人的環境を生かした環境教育が充実している。	地域の自然環境や人的環境を生かした活動を年間5回以上実施する。	農業体験、ロードレース大会、登山遠足、環境活動など、他校にない自然環境と人的環境を生かした活動を創造し、豊かな感性や保全しようとする態度を育成する。	B	B 環境に関しては、委員会活動の中で積極的に取り組んでいる。日頃の節電、紙リサイクル活動、節水ゴミ減量運動ポスターやエコはがきの作成など環境保全に関わる生徒の自主的な啓発活動を支援することができた。 「ゴミ分別や節電・節水など環境保全を考えた行動ができています」の問いに対し、学校では「よくあてはまる」または、「ほぼあてはまる」と答えた生徒が89%であるが、同問いの家庭での取り組みは74%に留まっており、今後の課題である。
		環境保全に係る指導計画が策定され組織的に指導されている。	環境に関する委員会活動の時間を20時間以上確保する。	委員会活動を通して生徒自ら主体的に、環境問題を自分のこととして気付き、その解決策を日常生活の中に見つけ出し、理解するとともに、環境に配慮した生活を実践しようとする態度を育てる。	B	
		環境保全に係る姿勢と行動が身に付いている。	生徒の70%以上が環境を保全しようとして努力している。	豊かな自然を守るために何をしなければならないのかについて考える機会を数多く設定するとともに、実際活動としての行動計画を立てさせ生涯にわたって環境を保全しようという姿勢を身に付けさせる。	A	
		環境保全に係る取組に対して、地域との連携が確立されている。	保護者の70%以上が環境を保全しようとして努力している。	保護者、地域の方々、関係機関と連携し、ゴミ分別、節電・節水など環境に配慮した生活を家庭、地域、社会に広めていこうとする態度を育てる。	B	
キャリア教育	進路指導	3年間を見通した進路指導計画が策定され組織的に指導されている。	農業体験学習や職場体験学習などを中学校3年間に5日間程度実施する。	農業体験学習や職場体験学習など様々な体験学習等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力を養う。	B	A 「進路学習などを通して、自分の将来のことをよく考えるようになった」という問いに対して、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答えた生徒が80%近くであり、生徒は自分の将来に対して関心をもっているようである。保護者の意見では、「将来のことをよく考えるようになった」については、生徒よりやや低かったものの、「家庭では、子どもと将来のことについてよく話し合っている」という問いについては、80%以上であり昨年度に比べかなり多くの家庭で意識していることが分かった。これからも、進路に関する指導の状況や、進路情報を積極的に家庭に発信し、学校と家庭の両方面で進路指導できるように連携していきたい。 また、1、2年次の生徒も高校説明会に参加させ、自分の進路に対して考える機会を設けているが、その説明会後に、「〇〇高校にぜひ行きたい」等の声も聞かれるようになった。進路を考える機会をこれからも多く設定し、早いうちから目標をもって生徒が努力できるように計画していきたい。
		進路情報の提供が定期的になされており、その活用が積極的になされている。	進路通信を年間8号以上発行する。	変化が激しく多様な価値観が存在する現代社会に生きていくためには、情報を選択して正しく判断する能力の育成が肝心であるため、様々な社会情報を提供するとともに、新聞やニュースに関心をもつ習慣を育てる。	A	
		生徒の多様な進路目標に対して、具体的に組織的な指導方法が確立されている。	生徒の70%以上が自分の将来のことを考えている。	進路学習及び総ての教育活動を通じて、高校合格が最終目標ではなく、自分の特性を生かした「生き方」を考えた日常の活動を意識させる指導を行う。	A	
			保護者の70%以上が将来のことについて子どもと語り合っている。	通信、懇談会、三者面談、高校説明会、体験入学等あらゆる機会を捉えて、生徒の将来の生き方について親子で考える機会を積極的に導入する。また、随時進路相談が可能であることを積極的に広報する。	A	
連携	小・中・地域連携	小中合同の行事や地域の方々とともに活動する行事を計画的に取り入れている。	小中合同及び地域の方々との行事を年間10回以上実施する。	小・中学校が隣接しているメリットを生かし、小中合同の行事や異年齢集団(児童・生徒)及び保護者や地域の方々と共に活動する行事等を積極的に計画し、ふるさとを大切に思い、地域の伝統や風習を守る意識を高める。	B	B 昨年同様に、小中合同の行事や地域の方々と共に活動する行事を計画的に取り入れている。「運動会や集まれサタデーなど小中合同の行事は充実して楽しい」という問いに対して、「よくあてはまる」、「ほぼあてはまる」と答えた生徒は85%、「祭りや収穫祭など地域の方と取り組む行事は楽しい」という問いに対して、「よくあてはまる」、「ほぼあてはまる」と答えた生徒は、95%以上であった。ほとんどの生徒は、小中合同の行事や地域の方々との交流を楽しんでいる。 また、「授業参観や懇談会に積極的に参加するよう心がけている」という問いに対して、「よくあてはまる」、「ほぼあてはまる」と答えた保護者は90%以上で昨年よりもかなり増えている。 「PTA活動や地区の行事に積極的に参加するよう心がけている」という問いに対して、「よくあてはまる」、「ほぼあてはまる」と答えた保護者は80%以上で昨年よりも増えた。これからも行事を見直し、改善して、保護者の協力を得られるような行事内容等を検討していきたい。
			生徒の80%以上が各種合同行事等に対して満足感を持っている。		A	
		小中合同のPTA活動や地域行事への協力体制が確立している。	保護者の70%以上がPTA活動や各種行事に積極的に参加している。	保護者や地域の方々が積極的に参加・協力できる内容や日程を設定する。	A	
		小中連携の研究会を計画的に行っている。	小中合同の研究会や授業交流などを年間5回以上実施する。	小・中学校が隣接しているメリットを生かし、合同の研究会や授業交流などを積極的に展開し、9年間を見通した後川内ならではの教育を構築する。	B	

【次年度の方向性について校長所見】

学習面においては、朝学習や個別学習、研究授業等、本年度の成果を基に、更に少人数を活かしたわかる授業の推進とともに、家庭学習の習慣づけに取り組んでいきたい。人権教育では、コミュニケーションの第一歩である「あいさつ」を軸に、生徒一人一人がお互いの良さを発見し、明るい学校生活を送れるよう心豊かな生徒の育成に努めたい。体力づくりについては、登山遠足、校内マップレス、ロードレース大会(校内長距離走大会)、及び1学年で農業体験学習など地域の特色を活かした活動を取り入れながら体力向上を図るとともに、日々の部活動においては、よりきめ細やかな個人指導に努力したい。これまでの総合的な学習や委員会活動を中心とした環境教育を継続するとともに、家庭の協力を得ながら、身近な家庭生活及び学校の外においてもふるさとを大切に思い進んで環境保全に努めようとする生徒の育成に努めたい。キャリア教育については、これまで取り組んできた進路指導等を生かしながら、進路に関する指導の状況や、進路情報を積極的に家庭に発信し、進路を考える機会を増やすとともに学校と家庭が連携し、早いうちから目標をもって生徒が努力できるように計画していきたい。連携関係においては、小・中合同のPTA組織や小・中が隣接しているメリットを活かしながら、小中連携を意識した後川内ならではの教育を更に推進したい。